



Prism

学校が大切にしてきた「自由の相互承認」言葉の意味を子どもたち自身がどう受け止めているのか。

保護者の皆さま、いつも温かいご支援をありがとうございます。第1クォーターが無事終了し、休みに入りました。心身ともにリラックスして第2クォーターへ向けてパワーを充電して欲しいと思います。

先日の学習発表会・参観日には、お忙しい中、多数の保護者の方々にご参加いただきありがとうございました。生徒たちは、少ない練習時間の中、「自由の相互承認」というテーマでドラマを精一杯演じていました。このテーマは、生徒から出たものですが、SOLANの大事にしている理念でもありますので、演じることを通してその意味・価値を考えて欲しいと思いました。第1クォーターの最終日に8年生の子どもたちに「自由の相互承認」についての思いを自由に書いてもらいました。出てきた声は、大人の私たちが思う以上にリアルで、深く、正直なものでした。

今回はその内容を、ご家庭でも話題にさせていただけるようにまとめました。生徒の回答を分類すると4つに整理できました。

① 概念の正しい理解と理想への共感

言葉の意味を的確に捉え、それが実現した社会の理想(平和や社会貢献)に共感している前向きな認識です。「自分の自由(個性)も相手の自由(個性)も等しく認め、尊重し、お互いに配慮・納得することが大事」、「全員ができたなら戦争のない平和な世界になる。大人になったときに社会に役立つ仕事ができる。いじめや暴力を減らし、これからの時代を快適に生きるために大切。」など定義や意義などを理解し、共感している生徒がいます。

② 現実社会・人間関係における「難しさ」の痛感

理論は分かっている、実際人間関係(特に学校生活)に落とし込む際のジレンマや限界を感じている記述です。「自分の自由が一番大事。お互いに賛成できる案など理想論で、どちらかが多く我慢しなきゃいけないことがほとんど。」、「昔は相手に合わせるだけだったが、自分の自由も大事だと気づいたからこそ、折り合いの付け方が余計に難しくなった。」など、言葉の意味を深く理解していく中で、難しさを痛感している生徒がいます。

③ 学級の現状に対する危機感と内省

また、言葉だけが一人歩きし、実態が伴っていない現在の学年・クラスの状態に対する鋭い批判や自己省察をしている生徒がいます。「学校の結成当時から言われていて言葉は知っているが、できているとは限らない。」、「釧路に行く前はよくわかっていな

かったが、他人に迷惑をかけたとき、自分中心で決めては絶対にダメで、常に相手を思うことが大切だと痛感した。」など体験を通して、今の学級の実態に対する強い問題意識を持っている生徒がいます。

④ 不信感・現実主義と対抗策

「全員の自由の承認など不可能である」という諦めの気持ちや、理不尽な他者に対して自衛しようとする強い現実的なスタンスを持っている生徒がいます。「表面でしか成り立たない。誰かの自由は、絶対誰かの迷惑になる。」、「相手を認められない人や、理不尽なわがままを押し通そうとする人がいる。」など、理念に対して懐疑的な認識を持っている生徒がいるのも事実です。

考察すると、学校の教育理念として「自由の相互承認」が深く根付いている反面、生徒たち自身が「言葉を知っているだけで、行動が伴っていない(自分を棚に上げている)」と冷やかに、かつ危機感を持って現状を見つめている点があります。しかし、「釧路への合同行事」をきっかけに「相手を思う大切さを痛感した」という記述から、綺麗事ではない泥臭い集団行動の体験こそが、この抽象概念を「自分ごと」化する最大のフックになっていることが伺えます。また、「昔は相手に合わせることだと思っていたが、今は自分の自由も大切にしなければいけないと気づいた」という記述は、心理学的な発達段階において大きなステップを踏み出している証拠です。単なる「我慢(同調圧力への屈服)」ではなく、自分も相手も100%大切にしようとするからこそ、「折り合いがつかない」「どちらかが我慢している」というリアルな葛藤が生まれています。この葛藤こそが、彼らが今まさに大人になろうとしている証拠ではないかと言えます。

しかし、「相手は自由のつもりでも、自分は安全を脅かされている」、「一部の生徒が理不尽なわがままを通す相手には強気で出るべき」と語るように、全員が善意で動いていくわけではないという「社会の厳しさ・理不尽さ」に直面し、防衛策を講じようとする姿も見られます。これは、理想論だけでは解決できない人間関係の複雑さを彼らが実体験から学んでいることを示しています。まさに、大人への成長を感じさせる一面でした。

以上の実態を踏まえ、今後の方向性として、「折り合いの付け方(妥協・合意形成)」のスキル化などに取り組んでいきたいと思っています。今後は、「お互いの譲れない一線をどこに引き、どう対話で解決するか」という具体的な合意形成(アサーションやネゴシエーション)の技術を、ワークショップ等で学ぶ機会を設けたいと考えています。自分らしく生きていくための進路選択へ向けての支援はもちろんですが、人間的に他者から信頼される一人一人に成長して欲しいと願っています。そのための支援も重視していきます。

応援してください!

